

2021/5/19-2

(うと Q 世話し 重たい事実)

二、三日前に、ちょっとした記事ではあったのですが、大変ショックを受けた記事がありました。

「感染拡大防止の優等生、台湾で、新たに 150 人の新型コロナ感染者が見つかる」  
徹底した水際対策。禁止事項違反者には高額な罰金、IT を駆使した事前防止策の実施、そうして当然ワクチン接種などで、一時新規感染者ゼロにまで押さえ込んだ「あの台湾」ですら、コロナを防ぎきれないのかあ、と。

それで蘇った記憶が 14 世紀だか 15 世紀に、当時総人口 1 億 5000 万人ほどだった欧州を席卷した「黒死病 (腺ペスト)」で、死者の数が 3000 万だったとか言うお話。感染拡大が下火になるまで約 3 年を要した。

当時ワクチンや IT 等はあるはずもないので、平癒に向かったのは恐らく集団免疫が出来たからだと思います。

それで、極めて単純にこの事実をトレースするとなると、コロナ渦下火は今年後半ではなく、来年末かもしれないという、驚きの推測が生まれました。

ワクチンの有無に拘わらず、ウィルス渦は何時の世でも 3 年単位。

「と、なれば未だ折り返し点前。うちの店は、残りの復路、あと 1 年半、保つ体力があるのか？」

しかし、現実には

「最早人間はコロナの変異スピードに着いていけなくなっている」

この「残りたい」と「その確率は極めて低い」という、相反する「願望」と「事実に基づく推測」のせめぎ合い。

我が国の官民に渡るコロナ渦対策、イヤもっと言えば危機管理に対する認識欠如と能力不足はお粗末の極みですが、仮に我が国の官民が危機管理認識と能力に於いて、台湾並みに高度なレベルであったとしても

「それでもコロナとコロナ渦を押さえ込むことが出来ない」

という「この事実」

これには、大変重たいものがあるような気がして、しばし思考停止に近い状態になっております。

まさにサバイバル剣が峰で超弩級の強風にあおられ、立っていることすらままならぬ、の感、是あります。

(注)

ワクチン接種は「完全な解決策」ではありませんが、集団免疫の早期獲得という意味では「極めて有効」な手段です。

全ては時間との闘いです。